



箱可巻

下
未本



増
775
157

肩同答下巻之本



○神元同日世俗のころとて、いふ字同を扱ふは坊主のふか
 お家なぐれまふとて、まのふまふ河ぐんぐんすは
 るをわくく武相の後よまわく、なとまてまのちよ
 めくもする人あれし布くそく、さぬるうのあやまり
 りるまろまふむをて、ころころとまており、ま
 作の曰それ、後乃のくりんどうり、時をたぐく風俗あり
 元生の心汚濁よそありて、中物とてむむをりをのくりん
 とあふよう、まふむひる浮刺たり、これ字同を心のなれを
 まふあ男のおくれむとて、くすらぬが実とぬま字のなむ
 しよまのしよとて、まふむ中物あれ、兵衛人あふむを
 まふうとて、のりんせ、あう代のまふむ、なうて、字同の
 が実とて、ううかんとうまふむ、物の本まふ
 て、のくりんの後とて、まふむ、あう、地のりんとすむ、ぬ

終二夜はあられとさうなむらぐまはよいつらやぞとらうを
も武篇のたりのよハ義経公并慶と安徳とあり公あら
らむり又青よは日落のよあふんせめて安徳公并安
との風の子にむらうともしは似とあされうとを答あふ
そとんまう一城の石日ゆうとくはたすをえうと
人ゆうあふよのが武篇よとを田とうち葉とう家
田まゆ人新うら山うめ頭よんらうを合をく又青武
のよのよせさるの者ともふよと武篇者そありか
んやあふのきとくあまうあふとくはとぬと今時
かひまふひやくとくこのきとくそ心背れ移うとあ
かえぬよ智とさげまうとくふあすあうあうと海に
さしくいあうあうよの武篇よたにあふあとの武篇
あうは年しとくまはたさこのひがとけうひハ株とまら
負嶽うらむらゆひや又麓あう人よ安徳公并安をし

のてく武篇よたとあふと武篇ありとあふと又青あう人ハ
病あうとまうとまうあげらるあうあうハ勇あうよの武
篇よたにわうとじう今乃あふとさう考て孝同武篇
のさゆさげあうとさゆあふ心根とまをうとまうとよ
と海にさうとくさのあう人ハたとけあてさうゆれハ仁義
の勇あふらうふあうとく必如人よとあうらうそれハ作也
と孝同のよとさうとさうとた来あふたさとも也中庸曰人
一徳之己百之人十徳之己千之果能此道矣能愚必明
能柔必強このを漢乃とハ寫く天地の神たよ志ハゆれ
とけらうとさう工ととさげまうとあふとさうと必と
ととひうらうゆれつとを廢とてさひあふらうのしと
ふのらな知あふとくさうとせれつとあうとくさうとあう人
とあうと心仁義の勇あふらうとさうと武篇よたよのあ
うと海に曰仁者必有勇勇者不必有仁とこのを漢の

つくまをよゆすし〜 各各の室より入るなりごとくあれ
大徳より下はさる人とかくなきはまに現れなるとも
昔もふ詮原あその詮原もなれり多き人なるあよそれとい
ゆ〜あんだのゆえ也〜心とぬ〜心とぬ〜心とぬ〜心とぬ〜
思業工支ある人〜又不道〜もつ〜人〜人〜人〜人〜
字同のふことあはるふ〜もそのかくりんとあるぞあん
〜あの能説也〜も実の極言也〜述べて衆智の所也
ある心とらふ心とぬ〜も〜心とぬ〜心とぬ〜心とぬ〜
聖学也〜心ぬあんを千百里のあゆむ也心とぬ〜心とぬ〜
力とぬ〜あ〜美並ぬれ〜あ〜あ〜ん〜ま〜ま〜ま〜
とぬ〜も〜儒門乃先覺ふ〜ま〜ま〜心の端的と明弁〜
衆智の所〜れ〜あ〜ひ〜ま〜のゆ〜ひ〜ひ〜ひ〜
所充曰株と守ら〜の〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜
師の云々理の正実とら〜ひ〜ひ〜ひ〜ひ〜ひ〜ひ〜

の月海ありふあきゆ〜たありひ入と株とゆり〜高言乃
た〜也〜じ〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜
つ〜〜〜〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜
は〜〜〜〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜
希代不慮なかり〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜
心とぬ〜の先と〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜
れ〜の〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜
は〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜
あ〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜
う〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜
あ〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜
こ〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜
富〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜山〜

貞治と云々津世んやうくまふらんやうせまて字同やう
うんやうらうを控と云々暗室と物と云々めがごとく
作亮日上天子と下庶人よつてまうて皆字同やうを云ふ
しぬうけゆるるるは名無不肖の術の男後女のと云ふ
中しものりうづうのふい

しを同巻とて家二十のるある小里よと学校ありして小里の字
り代左とれらう作通とありて耕化のひよと半物と律
及とありゆりよりとて無廢不肖のづのまづのめふい
まて半物のらんにとりぬんやう也又字とまかこよみ
しをなとれし心よ半物の不まごがてんして男のまな
ひ心りちの流とらんしを中とてこの俗信のまよりぬとこ
ろあり又字と目よ見おぼゆるとまなとれし電人の事
のんいとくぬんしてとらん流とありとてとく心とまじ
まてふ笑の流とやこの今得あり六月とて又字とてんはゆ

とくりやんを眼とて又字とまじとてふ笑の流と云々あり
れ我まかこよく半物とまじとてかされし電経流はとて
作作してとみとて人よ漢釋をせその不まごとて
うとて我々とら男のまらひのうとてすは俗字の半物と
うとてゆりよりとてまてとてとてとてとてとてとてとて
のめと半物とてまてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
作亮日とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

皆まてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
やんそとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
十五座のとりとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
何との弁のま物とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
心はとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
福者禍淫の印証とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

何れと云へ

何充曰十三經を多しと云へ

何の曰孝經論沈孟子月易尚書周禮儀禮詩經禮記
左傳穀梁傳公羊傳爾雅以上十三經と十三經と云へたは
何充曰十三經も本に何れと云へ凡ての分やく皆よくま
ひつと何れと云へ何れと云へ其のうちにとて二書まあびを大
易のゆゑなりやと云へ本に何れと云へ

何の曰孝經論沈孟子月易尚書周禮儀禮詩經禮記
左傳穀梁傳公羊傳爾雅以上十三經と十三經と云へたは
何充曰十三經も本に何れと云へ凡ての分やく皆よくま
ひつと何れと云へ何れと云へ其のうちにとて二書まあびを大
易のゆゑなりやと云へ本に何れと云へ

世でくわすはまうてぬ後治溪に地の妙用をうらつと
其のありの之を二書と云へたは二書と云へたは二書と云へたは
心學と云へたは二書と云へたは二書と云へたは二書と云へたは
二書と云へたは二書と云へたは二書と云へたは二書と云へたは
二書と云へたは二書と云へたは二書と云へたは二書と云へたは

何充曰孝經論沈孟子月易尚書周禮儀禮詩經禮記
左傳穀梁傳公羊傳爾雅以上十三經と十三經と云へたは
何充曰十三經も本に何れと云へ凡ての分やく皆よくま
ひつと何れと云へ何れと云へ其のうちにとて二書まあびを大
易のゆゑなりやと云へ本に何れと云へ

義法をきく知かりしは術より軍法とすまふべきなり
まことそれゆゑの功ありとも本居氏もその家の之類とて
のせんはな勝行とて日本にその比れなきはたおせりとの山に
くらむ傷漢の如くしたるなりとすくかんくはのる理を
あはらむしとすまふ一乃そとありたねをいふなり歎を
病あり士卒を某味也ゆの法を某方なり観身用用の武略
をに珍の醫術也奇正のそふ歎もつて特化をるを政補
の某方をよむまふくはとて軍法とすこし
りうより大ねを醫法とすこしとすねとあり療治らるるこ
うありあふたしとす一陳氏の功を備のそとやうせん
のみだててとすこしえありいまるたねを某方とすこし
あはれ病功のつるしとすなぶくはとて軍法ののり
んかたをね運命のいさむはくくした歎もつりよはいあ
術利とてね國とすく威とゆふふをたあらせよたねよく
えりけりまふくはとてありやすた病ふたなりとす病と

して某代とすくはとすりその名たつきがふりとをを能は
韓任項羽法音孔の義法などのとすくはりんとすこしあ
軍法の妙なりとすくはとて百戦百勝の功とたりるを
醫法よりとすこしあは珍の妙術とて療治して百病と療治
し乳死回生の功とたりきる扁鹊倉公東垣丹溪などこ
とらの名醫のしとて軍法とすまふひても薬性の辨別なく
武用とすくはとて醫法とすひらくまふひても薬性の醫術
もく療治らるるまふ醫者の山とすこしとす今ふくは
やと療治なく醫法とて療治をてがむるありとす
とすの療治の扁鹊のぶく乳死回生のしとてありとす
人もありとすまふを忠とすまふひく武功とすまふあり
軍法とすまふは人の功のしとすこしとすまふのしとす百戦
百勝の功とすまふ一人もありとすこしとす武家ありとす

作充曰軍令だつてくしてソレ軍の教ふからりらん
陣の曰合戦の勝負は徳のち才のち力のち軍のち
とく口つられ差別あり徳とをそ文武合の戦の
才とを武略かしく教と自や自在より海り一欲
信とよりくさより九天のよようた九使の下ふ
百勝の功とをさる才徳のちちと云ん教れ
あり軍とよりそを主のつとをさる軍令の半あり
てじふひのさるあひを軍のはた方なりとも也
大軍の合戦は徳の才より力より軍より才より
角なれし軍のつよたかしく合戦のちか
つとれし軍のちかしく合戦のちかしく合戦の
軍のつよたかしく合戦のちかしく合戦の
必してんくをあそむる蜀のくよは後漢の
命をさしりしとくも法普孔明と云文治のち

名大ねあり魏のちかしく合戦のちかしく合戦の
かろ大ねあり魏のちかしく合戦のちかしく合戦の
とくも天下よ武勢とゆふとくも元来蜀の軍よ
孔明の天年みつきと魏の大ね仲達と対決のち
病にたれより孔明の死後を仲達よきつとく
ね蜀のちかしく合戦のちかしく合戦の
かろ大ねあり魏のちかしく合戦のちかしく合戦の
し何ゆへく人の知らる也項ね高祖の軍令
ち徳のちかしく合戦のちかしく合戦の
る徳のちかしく合戦のちかしく合戦の
取小くゆをたのせんよか項ねのちかしく合戦の
標悍精賊とて徳のちかしく合戦のちかしく合戦の
と云ふ徳のちかしく合戦のちかしく合戦の
かろ大ねあり魏のちかしく合戦のちかしく合戦の

ち視のてんりくありきりつきのふくのきありとありくは
才智の運命は勝負者ありとありくは流石王史何より
仲克曰才治智の運命は年南より指負いりくや
昨の曰せれお基の勝負のふりくはかせんま天時
世の勝負ありくは感心趣きり

○河光問曰吾人賢人英雄妍雅の者ありくは
作の曰文武合一の略位十分ふありて才治千万人
をこれ神の不測の妙用ありと聖人といふは常禹湯
文武周公孔子に在り吾人よ一等ありきりとい
伊尹傳流太公君臣教子曾子子思孟子孔明王陽明
とありはと解の才を賢人よ一等ありきりといはれ
賢人よ牛角ありと英雄といふは管仲樂毅淳子元
外とありはと解の才を賢人よ一等ありきりといはれ
くはと妍雅といふは項相韓信といふは也長行
成なり

日本少くの英雄ありて一賢人の才治は他の神の
故に神妙不測廣大用彼を為すありと賢人といふは
吾人の神妙をかりぬきしと神妙不測の才ありと
確と云はれはと賢人といふは一賢人の才ありと
この才を才治の才と云ふありしと君子の才あり
すも此の才を才と云ふは才の才ありと妍雅の才
を才の用と云ふは才の才ありと妍雅の才ありと
く神妙不測の才ありと君子の才ありと
くはと云ふはと賢人といふは一賢人の才ありと
美雅も才と云ふは才の才ありと妍雅の才ありと
心の妍雅と云ふは才の才ありと君子の才ありと
を才と云ふはと賢人といふは一賢人の才ありと

とバ仁義のたどすところありてきまらむせむやまうきまらむしり
も片腹はされしとありてきまらむ仁義のたどすところありて
よきところありてきまらむ人々今してゆたふありてきまらむ何の
ゆたふなくいつよきけり腹をきまらむとて人々きまらむとてあむ
とて人々のたどすところありてきまらむとてきまらむとてあむと
神虎曰く仁義をたどすところありてきまらむとてきまらむとてあむ
く腹をきまらむとてきまらむとてきまらむとてあむとてあむと
作の曰く仁義をたどすところありてきまらむとてきまらむとてあむ
またけりてきまらむとてきまらむとてきまらむとてあむとてあむ
ゆたふとてきまらむとてきまらむとてきまらむとてあむとてあむ
きまらむとてきまらむとてきまらむとてきまらむとてあむとてあむ
たりてきまらむとてきまらむとてきまらむとてあむとてあむと
仁義をたどすところありてきまらむとてきまらむとてあむとてあむ
とてあむとてきまらむとてきまらむとてきまらむとてあむとてあむ

とてきまらむとてきまらむとてきまらむとてあむとてあむと
けふかきりのふありてきまらむとてきまらむとてあむとてあむと
その子細いりてきまらむとてきまらむとてあむとてあむと
あむとてきまらむとてきまらむとてきまらむとてあむとてあむと
喧嘩のたどすところありてきまらむとてきまらむとてあむとてあむと
きまらむとてきまらむとてきまらむとてあむとてあむと
かあむのたどすところありてきまらむとてきまらむとてあむとてあむと
ゆたふとてきまらむとてきまらむとてきまらむとてあむとてあむと
きまらむとてきまらむとてきまらむとてあむとてあむと
ゆたふとてきまらむとてきまらむとてきまらむとてあむとてあむと
つきまらむとてきまらむとてきまらむとてあむとてあむと
かあむのたどすところありてきまらむとてきまらむとてあむとてあむと
この揚子とてきまらむとてきまらむとてあむとてあむと

釈迦を摩訶の法と云ふされん振を成生のまゝひてありしゆ一
ていとあれしかるひくもこほくの一高まといふ勤苦懲
のきあるれハ一版珠勝をれもその法を成るよ天竺戒は風俗
とりとてまゝ教の法なりとて造ね編纂なることとて
なりそのとまゝしりてありの吾も実言の至者よ何ん三才一
貫中庸精微の至るを成むく人振のこまゝをいせしありし
多し聖人中庸の法を述ぶなりとて造ね人振のさうりし
とのふとてまゝとて程を編纂の法と述ぶなりとて造ねこな
ふよありて元來釈迦を摩訶の心術を勤苦懲免のきあるる者
とて未流よを吾と成りて思ふとて免人の心とてまゝなりとて
しと流声并文れとてしと未試その流とてくむ比丘のあやま
りしと云ふなりとて来れ方見不純執せざるなりとてその教法程
迂濶なり故なり釈迦も摩訶もすれなり程を成るれとて聖人よあり
ゆれありとてあり中庸精微は密小悟入して中内の位よ

とてありてたといふ中内なりとてわれも許中曾哲かこれと
く小のりもかく世とまゝなり教の法とてまゝなりとて聖人出
世すしゆいぬ我もよ生れてその法をひろまりしとて幸し似る
不孝なり
仲光曰大唐と天竺と十美星滿なりとて
世の一人釈迦の他法と大唐は程を成るれ他法とありしとて
たゞとてありとて程とてありとてあり
仲の曰とて
他法とていふ味洋判する心育の凡夫のまゝなりとてありとて
まゝなりとていふのちいふ他法とていふなりとてありとて
中とてたれいふ儒の佛道の老を成るなり半成なりとて
先ありとて泥なりとていふとて執事なりとてありとてあり
とて世界の老ありとて程ありとてありとて大老程の
ち小同類しとていふなりとて神を十方世界に成るなりとてあり
とてとて程なりとていふとて風俗を成るなりとてありとてあり
とて同一の程なりとていふとて唐も天竺も家なりとてありとてあり

何れありゆりよこのうち毛乳あふふとふーびくあるゆよかんの眼
の影うふ家哲人をあよるとしてふらる迹とすそ何ふかりす
曰一作ありんとりく評判をなす無く聖人も賢人も哲者も
指志も一んよこれ見性成るれいそのんをうく釈家してその位
と定あり莊子と釈か進廢しふとして他法ちひそれはその人の
見性成道におかしくおなりふらうく哲者と云佛と云名をちひ
ぬきしも見性成るの人の位をいふなり天竺少く佛必来とあ
る免をぬ人の心の位を大唐とて指志しかつ今中仍を下の人
の心此位あり靴波のありを伊勢のしよとたてしう流の定ありと
ゆふまふー
何克曰見性成るの人の位と釈家するに申しく
化先のおふひびきふありい後か子同とてしう流の定ありと申しく
師の白目とて物と云くふらうとらう下とてえありはと見易と
てふぬありいさくふらととえあがりとをんかててふぬ
ありとらとらありんをて心と釈家するにのこく聖賢の心をも

哲者指者凡先の心と見えまふ日月此義指としてしあまふとく
あり指志指志凡先の心あり聖賢の心とてうひつるは答よこふ
せりまふらふく考とらうよとからん及よ主儒のんそのお
の学同とてハ申しくまふまふ知とけくをん唯主儒のんその
く切確取廢して大賢の悟の位よりおとせし莊子釈か進廢
かとのんを釈家するとして白登と黒白とありとくふらう一莊
佛の学同とてまふまふありとてハ聖賢の心をまふまふと富
士のぬりしとらその巔と作らうとてくありとら及よ釈家の流
とてくし人の法分聰明ありありありは編よ我嘗の佛とてし
後よひく或を佛法小宗のありは教う儒の極のぬらははこ
すまふらとて或ハ釈家の大賢孔子ハ小賢なるとて或ハ佛教を因
典を教を介典俗事ありとて或ハ儒教を介たありとて世
とまふらう一人とてまふらうぬまふとてまふらう地よおぢるまふら
ふらふらうありまふらう口のありらるまふらふを一人かけふ淺海するら

その名の元祖教也其唐の人もさびにたるにどういふか
我慢邪慢をたゞしくかゝるゝといふにまゝかぬよ人の教乃法中
の多し一應も聰明なる人のつくたところまかぬよ人の教乃法中
庸よそのいふるよわよくさ法のもの根をさすよ未流と
いふるもさ理未とさみちうて皆老のるるよ言入とさ
故より抱我とありさいふんともいふ家慢の魔んといふん
儒といふ佛といふるとさしてや来と深と息不戴一貫の心字
とつめてた名唐廓此神たささうかまして何のいふもな
にどのいふ
何光曰先生の教とさいふし佛公聖人も二位不
とさなら見性成たさうさうさ佛者曰我造之聖化彼と丹
云此文ありい文のそを教の佛のりて佛弟子と大唐
つらう老子孔子教子と聖人化をさして唐の元と化度
したまふと云後ありい此文とさうんを孔子教子と皆教の
才子ありか我乃同縁とさればまゝとて孔門の儒者さるよ

佛法とさうさくさるるのいふりありとさぬとてあさうい何
とさか我乃同縁とありとりて也 作の曰我れい
いといふ少門佛字とさうとささめく舟のうちの陸大海とさ
らんとさ唐のそく佛たささうさうと自満とさう
うく儒者れ佛法と作とさうて我慢れ邪ん甚とされ
た理のそいよと云つたさ覚悟をたさうつとさうとて
秋也といふをく儒者の作とせむものさう秋をさすれ
相者なれか厚とさうさういふとてあさういを申す
いふとさ法とさうとて秋とさうとて秋とさうとて秋と
いふとさ法とさうとて秋とさうとて秋とさうとて秋と
子細か人間の生れし父母のまのいふとさうとて秋と
さうとさあうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
あさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
りて佛弟子と大唐(き)孔子と化をさめされさうとさう

勝しよとこのむ神んよを傷たよを存じかしくなりしをありて
何光曰教るれ教の法とまわれらば定か初者懲戒のきあなり
とんたの大定と悟るるんかれをて教れ法をん世とまこく
んと流し禽域よかしくしつてとんたをりて存んい
不審むよん易きとくしあられ合無成るんまわれよその
皮膚乃大定とつりし子曰差之毫釐謬千里この聖撰の
定をん法の立身も以てさるひねとてその法海の跡のあまり千
里うちひらきとてさるひねとて悟とひくく精粗生熟
下ん法の立身との差あとのゆるをれは儒佛共あのとち知く
夫人間を迷悟の二よこしませれと迷よん凡まかり悟とんを費
君子佛菩薩ありその迷と悟を心よあり人欲さく云のる雲
あつくん月れひりかすけして定の取のくくをて迷のん
云かり子同修の功つりて人欲さくははくをのまこれ
ん月の具光あさくふてさすて悟のんといは悟のんを佛はを

ん定をん佛妙覺佛化力佛かしく存くまを得法淨位と云あ
くし小滿すり高の廣大の乃作とてまをねえのんの位これあり
かこのとく悟るるんを欲を自然の具覺とてまを定と性
定灵性と定佛性と定佛性と定これするから初るを魔のん
法の端的あり三大宗れ観念十七百則乃云案塔この端的よ約
とりいを微法淨位をん定會のん佛を不思後の作して毫釐の
拂排といとさるをれも儒教よをいを得法淨の位れ小不思
法淨位れ力とりて神記具氣不二の不二の一的辨して一
向上精一の神化ありて神化の後と聖人を名くを妙天と良背
歎意の位ありて神化乃然胎化熟半なりと聖をれ大賢と名く
中位あり中位ハ欲を自然の心を得法淨の位の上を
を妙天と良背歎意れ聖胎とてさるふりてその法海の迹聖
人よたかりこれと大一天と神化と名く許申案父曾哲莊
子秋也を魔かしくを欲を自然の心とあはくさるを得

清淨の位もこれと五劫の中なる山頂なりと定む妙天に良背欲
意は聖胎とてこれをこころふくその心を欲意清淨自然なりて
の意より接抱の後神の欲相ありて聖人良背欲意は天
去よとてこころり天去ふ也とてこころも欲意清淨自然なりよ
つて聖と云なきもあつて悪はつてこれも天理なることこれ天
去よもあつて欲のありと云のなり聖人これと相者と名を
まねの字も眼とてこれを欲意をこれ欲のありは表してす
てまねの字も眼とてこれを欲意をこれ欲のありは表してす
以後と思元神の具足とてこころも欲意清淨自然なりと法して
元氣は具足とてこころも欲意清淨自然なりと法してす
儒者と理と窮性とてこれ欲意清淨自然なりと法してす
なりんを得ることをこころも欲意清淨自然なりと法してす
妙なりてその妙法中心なり傷者悟り則其心金細細悟り則
その金細と糸軒の祭的められこころも欲意清淨自然なりと法してす

二の二不二としてまことに毫釐れきもなれども清淨の位あり
やまりの千里なるもこころも欲意清淨自然なりと法してす
の意とてそのすむりこころも欲意清淨自然なりと法してす
さむりこころも欲意清淨自然なりと法してす
類これなり欲意十九なり天子の位とてこころも欲意清淨自然なりと法してす
人間なりこれ生理といふなり或時を乞合一人偏とておあり
人なりといふもてこれの位放りは法とてこれ欲意清淨自然なりと法してす
これなりと法これ欲意清淨自然なりと法してす
覚ももてこころも欲意清淨自然なりと法してす
流とてこころも欲意清淨自然なりと法してす
地も悟りてこころも欲意清淨自然なりと法してす
こころも欲意清淨自然なりと法してす
并名とてこころも欲意清淨自然なりと法してす
此も悟りてこころも欲意清淨自然なりと法してす

地あり大賢を下の人を学問修めたりと惜とひうくものなれば
その見性成なるは階級はとく次第ありて中約の惜とこ
ろと八相志のいさしめたりゆす相志のさしめたりと八相志のいさし
惜のさしめたりと八相志のいさしめたりゆす相志のさしめたりと八相志のいさし
山の二作られたるを影のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
とあつていさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
上よ止得せされし元神の吳覚とさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
光曰たれより中約のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
学者もおろしとさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
初学の問をおろしとさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
山のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
ゆす相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
ましとさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
学者のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし

のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
ありとさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
なくとさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
乃とさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
ありとさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
とさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
昨のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
の大徳人生の天性を佛氏の格上とさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
一徳しとさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
とさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
おろしとさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
ゆす相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
人を教へしとさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし
教と仁の金件ありとさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさしめたりと八相志のいさし

此と云ものなりまに天神地示の人物と祭育しんす神皇
をて人間慈愛の神理ありもとる親親仁民愛物生理の時り
るじしてを一本ともさるる者仁者の考ふれた天乃とおそ
を無違てして生理とそこを科人とせらるれとして仁とするを
教と不教とのひふありして仁不仁と論ずる凡夫の心
あり教を飛科なして海すかたを不仁なり教を飛科あり
てこそこそ礼く神々の生理とそこを科な者者として
海すといふて不仁なりあり今佛氏の教生戒とのとて
ともさるる法ありして人間を仁親とせらるる人
をも容て不教とせずとて仁は似る不仁吾も似る忍
はは似る此と云ありか何のをもとめて正の神理は
らたりとらんや偷盜戒とありとて可なりとれた天
位の利して人間果の神理天下此故と感通して天下の勢
とありふれし不盗の軌迹一なりとて高の廣大の義ありと

云々云々といふと富さるるといふと云々云々云々云々
似たりとれども禮を天位の亨として人間恭敬橋名の神理天下
此故よ海して上宗廟朝廷と下民間よまを人倫乃文冠昏
喪祭飲食軍陣等ありの天理儀制と履とこふと宰ふれ
不邪淫一とと禮ありと云々云々の水と大海ありと云々云々
の上とましむるとらん乃邪淫天理のまはるかひとて子細その
妻一人の介としてありて邪淫とすは死法とてとる者も
しかり儒者の法は八庶人より妻一人此定あり天子よと士ま
てとてその位はかくおぼふとて后夫人世婦妻妾の負教自
乃天制ありて妻一人の定はけり子細を根子孫おぼのた
るれし婦人よ子れる所のあるなりともとてその位はの負
教の介を邪淫なりその負教不定とて妻妾ありてとて
けり文と邪淫と戒しりなり時におぼふとて天理とていふ
法の眼とすなりこれと法と云々云々云々云々云々云々

戒たりこれすすもなきいあ法とまりのありく 戒酒の人と飲合
と戒むるふとあふんまら及よ未流の比丘婬欲の可くはまらて
男女和合れりふりあれども大徳たはほりて出して空陰陽の地
不和合のまらそ執著の故惱みく例の家の方りとと巧ふ
一具如と同くして是欲のまらりくおきふよ人と女の形は似
せも見昌合をどまらく和合ふ人の書あしおせりまよよあまら
中く多産るあふり元来不婬戒の法天理をむらる法を
小うく未流のあまらく高生まらおらりあは他法とふらり
又珠の始ていたと刑罰めれらるを佛者のまらりた
ふれた又珠をまらて不菩薩乃果とゆふ人ふれしかくあふ
ふれ欲心をあまらまらまらとふらり例の家の遊をらり
夫婦のあまらまら新く腐くまらまらとあふりまらと禮なり
まらを信及まら肉なる故まらまら六飲酒戒のあておらり故
るらり一あ酒戒と信ふりまらまら可也まられまら信を天徳の

玉珠人同志実をあれ神理の考百りの根干りて自若
皆を死民之法不立とのまらまらと廣大親切を執る天性不
不妄酒一をとおあらまら九牛一毛と金牛は當ふまらとな
らぬ飲酒戒を智ふりまらまら六飲酒戒と信ふりまらめて凡
まの酒は醉弊してんまら威儀乱るるとして戒るふては
りんまら飲者の誤りして酒のまらまらあまらまらと食ふ
むせらる人の念といむまらまら不及礼の儒法よはて酒と
用ふ實まの歡と合肌膚とまらまら乳血と治し百業
れまらまらまらその上系祀必用のものふれ備ふ禁制すまら
まらまらあまら酒の忌也まらまらと智くまらまらまら
偏よひまらまら戒とまらちて智志とまら魚考人やその上智ハ
天徳乃負すまら人間忌也の灵明底底と妙まらまら弟物と
宰千の神理ふれ飲酒戒と智ふりまらまらとまらまらまら
ひうかまらまら似て似ぬまらまらまらまらまらまらまら

利を争ふて成るをかくとてとらざる故に平とひ花の生付をな
けりし不ふとてかみん二つあり君子たりとを利根をれ
郷原の利根とを利根の平とあり郷原は利根あり名利の欲を
絶して成るの是れは利根なく利害の分を毛以るはよ
てをひたすれ目的なくひくすも成るにまゆりそのも
二つありなり一は郷原は世間より多君子なり分れ郷原
は利根なくあり一は成りてかくまふなりまき宜なりとも一
まははは京核持利根として迹よるべき相小滞りたるの上
のより郷原は君子の光景より成る後をこひひくなり故に
孔子との介より多君子なり郷原は後を成りて言をけ
まふ今の世より郷原はありをこひひくありとるなり志あり
んちをよりわきまてまうこととまきなり

○所克同日孔子の禮法をちひてたふかふを控の道なりと
及はさなりとあり一申る也 師の曰控は聖人の妙用也

乃の拙者なりとありては竟舜の源授湯武の放伐小なりとて
周公の士握孔子は物にほく一動一静の微小をて皆控のたふ
ありと抑小なりとてたふかふを控といふ大なる誤なり 程子
て小の誤とて正しめされあり 控は君子のありたり 神はと
控となりたる名義は聖人を天と同化至誠無息相小凝滞せず
もん性性性来活潑地にておこなひ多し不とりく天の
神は小適當恰好なり 景象秤のありたるの定とらなく性来
滞りて相の控をとりて適當恰好なり 似たり定あり
ありて象ととり大貫下れ人の氣質の累ありとあるは
くく控とおこなふとありてあはらぬ小聖人天下のためは禮法と
定ありては禮法もはわらう控はたれたをては法不定ぬは
迹ありて是の活潑なりとありて控といふは礼法といふ
なりは定とありは小禮法の迹とあるは定なりとありて聖人
は法は定は控の妙なりとありて禮法は定をて考ふ

乃禮者之必特先齊也周云豈欺家哉かく
此と礼乃禮範と云く作強しての礼年多し若この準的を
とくると礼を人學れば流るるも飲主務法の地と執滞して礼
禮乃禮多ありし
仲光曰洪氏曰禮者聖人の大用味能立
而云禮猶人未就立而欲以鮮不介矣は格云とを先中少先
生の教等と云る弊ありしと云く
昨の曰は格云と
授と云まればあてしするごとくまじりしは礼の理味と
心ゆらとてたのそこひひとなり人といましめたるを定り礼の
理味と云ぬそこひひてたのそこひひとなり人といましめたるを定り礼の
よる人授たの法よちす迹小るすまらる面礼と見付中庸
精微の能と云ればまはに之欲のふは各々ありしをみれば法よ
おちさるると極れたるして神の授ふをむらり様と云ふ人け
ん地小まのつとこれに授の作極微の極尾と云く中庸精微
の神はして法よちす迹よるまらるの授の景ありしと云く

と禮人教と述べて礼と云る漢なり又一と云信儒の字と云るくして
禮法よるのちさりと授なりと云るりんはて何中乃適當と云る人
を欲んよほく禮法と云むそののふも不義なりと云するは
それ高滿の傲氣と云るしに故に授の名をかりてのれと云
と巧しとてその人人と聞し世と惑しなればさきとせと云る人
あてはさしと云る授の義ののといましめたるは洪氏の格言と
集注よ用ひめられりし
的年をを
仲光曰淳于氏曰男女授受不親禮也孟子曰禮也曰嫂溺則援
之以手乎曰嫂溺不援是豺狼也男女授受不親禮也嫂溺
援之以手者禮也曰今天下溺矣夫子之不援何也曰天下溺援
之以手嫂溺援之以手子歎乎援天下乎孟子のは章と考
見れば授と云る義ありしと云く
昨乃曰漢儒
及禮合の指授ればはは章と見あたましと云るのりは章の
禮を禮法と指ていし禮法ハ天下善民日用必のたのふ平生

テリふ佛者神也と信作すと難の難儀といふ佛を六通神を
八通神といふを神作たりと云ふ

○伊光河日先生の教と云へんは信をたす所の教と云ふも
そのりなるをまじく家人と云ふはそれと云ふも

日本を風俗のくは間をこたひるこころんはぬい
師の白うれきたれたる平定と云ふは信教の徳法と云ふ
玉実れたるうとぬくやうなりや日本信をたすは神
なり及し世界の肉舟車のいづる人かのみすりし天の覆ふ
地の裁しし日月のてしるを命をたすの者のはん

のふとて信をたすのこたひもぬくは信をたす所の禮を
徳法をぬくは信をたす人よむとてそのまじくをこたひぬくは
信をたすのふとての禮を徳法をたす所の制はなりは禮を
徳法をたすししは人す只今日日本を信をたすのふとて
成るししは信をたす人の信をたすのふとてありのまじく

たり信をたすのふとてをたするなり大唐をたすのふとて
是より信をたすししは人す只今日日本を信をたすのふとて
代々の聖人制はししは信をたすのふとてをたするなり
中庸此徳法なれた代りし時うつてはたすのふとて
利益なくしてをたするなりは信をたすのふとてをたするなり
前もししは信をたすのふとてをたするなりは信をたすのふとて
るものなれてししは信をたすのふとてをたするなりは信をたすのふとて
うとるなりは信をたすのふとてをたするなりは信をたすのふとて
周の代りしは信をたすのふとてをたするなりは信をたすのふとて
てぬくなりは信をたすのふとてをたするなりは信をたすのふとて
うとるなりは信をたすのふとてをたするなりは信をたすのふとて
をたするなりは信をたすのふとてをたするなりは信をたすのふとて
をたするなりは信をたすのふとてをたするなりは信をたすのふとて
をたするなりは信をたすのふとてをたするなりは信をたすのふとて
をたするなりは信をたすのふとてをたするなりは信をたすのふとて
をたするなりは信をたすのふとてをたするなりは信をたすのふとて

今くは徳たどをこなるふを何れ異境なりそのまじは時よお
意適南くてもそのんる名刺の私ありをせよの小人とよもの
君子の徳よりくんきさひまをそのめしる徳去の十下の禮文
此法よりひてもそのり中庸此天理ありそのん私をを徳
の徳よりひまをして徳たどり君子なりかどのしく禮文此法
よりまは実此徳たどをこなるを何れよてもまひひか
るもな成りのなり素夷狄の字夷狄素夷狄の字思難
君子入而不自得享のくまをいさなり 仲光曰く
去実の徳たどをこなるぬまをいさなりはるるくや 師の
曰たのまじまを自滿の浮氣名利の欲心とすく思難魚の
あとのそれ徳の源とすぬ一全存のん法と交用するを根
本とまをて中庸より禮文此法をてまをまの風俗とす
し何れも圭角なく目たぐぬれまをいさなり此法より
るく徳たどすりりそのまも人まをまんとあつるを魔んはく

孝悌忠信のたど根よ今くつとあまひ親を孝のつとく
君よりくあまをたどをけましるまを位高人年たつる人位
たれた命とすくやまひ友よりまをのりく義理とあて足
の間に友を奉とまひまをのりく義理とあて足たかこの
とくまをひまを徳たどをこなるをまをりか後よまひひてまを
あつるを世界のうちよまをありくはよりく仲恐とて徳たどをこ
かまをまをりなり 仲光曰くまをりくは時の物よみ坊主
れりてそりてお家のまを徳とあまをまをた理はるひりしとまを
師の曰俗徳の此法はま東國なれて何れも管よりまをり一定て日
本よこれ俗徳をまをまを徳とてかかしてぬ子細ありそのりか
まをのたよを福をれた中庸此礼理よりかかひまをいさなり
まをりくは泰伯を孝のたど此法を断りてまをりくは
まひりくは孔子泰伯其可謂文徳也已矣と嘆みりま
ゆかるとあまをりくはまをりくはまをりくはまをりくは

かよぬうしてそのおこひをまふの及理中庸よりあひまるといふ
とめぬまふうはまといふうや泰伯は孝位となく中庸よ
かふた文義理もなくてかこをそりて象判を泰伯の勳績と
とすしとあふまうしり人ありこれ舟と刻て剣ともしの無慮
あふん鳥と講とままうらん侮人なりうに義の守りなく
まよ何れりしひすもかくてかこをそりて文とてままりん
氣ちるひとまものなりん利欲なく知れしひとらんあ産家が
うよふとらんためふかこをそりて中庸を非難をむくよといふ
少人小人やいんまうす防まうやひかまうそのうとそりて
ころころとを吟味してま色北真実なぬとのなりそのうと
そりてころのん根を道せらるあ何のたぬと考て洋判のう
只そのうははるのるんうりて吟味洋判をまうん凡まのたう
なりあれのうあへ何のの洋判をまうん根よて吟味せぬハ
色北のあやまり何ののなりこれよ何あかゆまうすやすれたん

何とむし一ス唐益源とまぬすひとも同教板十人と引率一
つり將軍一号一あまこれ星と厚う強盗一人と教りその
まをまうんその武勇れてまこれおそれる名大おまといすして
大盗とまていん一とたにたりおねのくまうも盗犯とまなれ
及分剛彦をまうりとのなれた武篇者といんておす人といふ
めりそのまおけのやまひ各大将武篇志のやまひまおらま
くれたそのん根おすみと平とすりぬそのんでりて益城とまう
あふの諸ののううりく作徳あり一 作先曰玉実の信た
とひまを名門の歌とすらう年一の玉実をうけは信をむ欲心いさ
たふ我とのなれをすくはるうとくも欲とすくま世の中ハ
まやひ成やまうまうなむい 作の口をれを佛氏備傳の教ふ
秋宮の天子の位とすて麗居士の家紋とすて一とれをま欲ありと
まをすなりひてあやま根なり信たをそのやうすもあなくて
位とすて故實とすらうとて氣ちるひの欲をまなまうて大よきう

とけんを文亦く録喜とてけんそのまをくあらふに平水のみ
亦も喜もなれは朱く録喜とてまらりあやうてかんのこ
そのとく木末人心よ好然のるれ定をなれはその生を乃まの
凡俗その家れに池石地あやうてまりて好然乃亦定文とて
了何り子同氣能も智心所り先平心の潜的とて考定その上
とて智心と吟味してかち去たし朱とて亦赤き文は愛しあふ水
もくまらぬとて朱とて下え伏て水の本交あらうとのあり
すて之智心身れんの水をもよとりまらりやすらふまらり
あまら 休光曰同思難意とてまらりなる念意とて産也
休の曰く一たる念念あらうれたをひて益をくまらりなる
所くくまらぬと思ふと天志のまらりひらうと同思とてまらり
接抱の餘も吾のあらうとてまらり思ふとてけん工まきまらり
のとりまらりて感通のまらりなるとて難意とてまらりは
此病とて却克治とてまらりなるとて省察あまらり

○休光曰曰仙術とて学ふ人を生不死の益あり佛后と修行する
人を成佛得脱の益ありとてまらり信道を学ばるるまらりなる
後の益も産也 休の曰く乃教も無碍の況とてまらり
てまらりとて孝経易經とて悟ぬとて生不死後のまらり
掌と指とてまらり分ぬれしとてまらり浅海とてまらりなる
とて乃人をまらり教あはしとてまらり仙佛の后とてまらり
ひととて仙家の生不死の術も佛家も成佛得脱の修行も
皆畢まらり心の工まらり仙家も徳心煉性と宗旨とて佛家も
見性と宗旨とて工まの十分成就する所の心性と長生不死と
成佛得脱とてまらり二氏とも元氣乃灵光とて心性の場的とて元
神も妙理とてまらり乃まらりなるその見性成后中の君子とて
位下なり佛家も一人の工まらり元神の神也とて性の場的と
窮理とて性も教と宗旨とて工ま十分成就する所の心性と雷神
とて神也とて其宗旨の場的とて元大悟の心性も仙佛も一位

師なる所ありて生長するを指す所の益も成佛得脱と指す所の
尊一性中一なる益ありと知る一性理會通曰易曰保合大和
乃利貞是謂大和者乃性也生物之本天地之根一團真理實氣
充宇宙而中歷浩劫而改鼓剛柔生造化之象象拱三才
冲莫罔過融和純粹若性保合氣而不失合以理而不違乃同
大道如魚雨之滴海洋滄溟而共存心契天去於尾雲之沒元
攬太極而回久利久而不虧故曰至誠無息久則微微則無遠
不竟日月晦而明不虧故曰至誠無息久則微微則無遠
吾保大和者保合之至妙至妙者也少者乾之曰性而理也
帛氣也人之性天地之理也人合於地之氣也地合於天
地之理也氣合於天地之氣也天地之氣自者也
理氣之於性也氣合於性也性合於理也水投於干何可竭火投於
干何可滅中其性大造而超小劫故不以天地成毀而成毀獲
大力而忘小形故不以軀殼之存亡而存亡謂之貴性之象謂之

性乃同天謂之至法法乃性中大有至氣益純春融熙乾亨泰
既利且貞活潑之性即易之英中再理正位居性存存在中
暢于四肢榮于百業存存也此乃儒教中不死之神方長
生之心術不可守守守守守守守守守守守守守守守守守守
同日而語也二乃賞苑之性即易之英中再理正位居性存存在中
至誠無息之位也仙佛乃修行之分也其材之及及及及及及及及
りとのよまに性之速とん〜守守守守守守守守守守守守守守守守守守
他よりとん〜守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守
全孝此の法をい〜守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守
孝理曰夫孝天之經也地之義也民之行也天地之經而民之
又曰天地之性人為貴人之行莫大於孝孝莫大於嚴父嚴父
莫大於配天又曰孝悌之至道也神之光於四海而不通詩曰
自西徂東自南自北無思不服曾子曰夫孝置之而塞乎天
地溥之而橫乎四海施諸後世而不可斂也推而放諸四海而

聖撰賞苑の心を人間の才件發膚を本來天性仁孝の凝
聚なりと示すのみならず孝經に示す才件發膚
こそよりなり故に天性仁孝のたるとは海りり才よかこなりと
を考すも血肉の才件發膚とてころこなり血肉とていふも
不孝ありん孝ありり血肉の才件發膚とてころこなり血肉
とていふも天性仁孝の才件發膚とてころこなり血肉とていふなり
教才成たとのこまふはたなり天性仁孝のたるとはまもら
才よかこなりとて知運をたなりと記きたとひ才と全して
毛一むしりころこなり血肉とていふも孝ありあり不孝なり
血肉の才件發膚とてころこなり血肉とていふも天性仁孝の
才件發膚とてころこなり血肉とていふも曾子曰我陣當也孝也
は賞苑の心を軍法戰場とて武勇とてをこらふをこら
て軍功となすときを疵と被りて討死をり孝ありり
武勇とてけまます軍功とてをこらるとは服膺病の悪名に

うをすも不孝なりとていふも孝ありあり不孝なり
之心即此比し才首分列と啓年啓足一級不規則を元牖
下亦与刀鋸傷辱何異これを論は曾子侍於のと記門
弟子と呼て啓年啓足とていふも侍と行て不教數
傷のん法と示しめされることと記さる曾子の才を血
肉の才件發膚とてころこなり血肉とていふも天性
仁孝の才件發膚とてころこなり血肉とていふも
たると孝經の聖撰のこらとて章句の信者曾子の
才とていふも血肉の才件發膚とてころこなり血肉
らとていふも講説すふとて陳氏は奈むありは措の
を全孝のん法とていふも文用をれと純孝比干の諫て示め
されて才件發膚とていふもやう才首分列ありも曾子の
足と啓て一毛とてころこなり血肉とていふもと示し老され
とわれ一孝ありりとていふも全孝のん法とていふも文用せ

る人々八十九十まで年をきて家家のうち少く病死して乞
一歩一歩をこゝろしすといふも刀をくまきれ据ふあひれ
刑罰小あひたりしぢとむらう不孝なりと云ふなりよく
よく作徳あるべし

○仲光同日金孝のん法とよく文用はる良背款意の聖域
一もいさうらんや 師の白ん字を凡夫より聖人までみちかれ
は金孝のん法をふらち良背款意のん法なり名をかたり
て実をふれし 凡程なりこれと本件工本と云なりん法の
端的を同一貫ふれた文用する人は吾徳を大聖神の徳が
ありしは金孝したとてん法を大徳なり文用する人を海と
ゆく人なり海と括く人は素徳や幼男女を建志不建志の差
かあれども海を括く大徳なるがごとく 金孝のん法とよく
文用してゆいあれとせんひろく海は廣大高の精
微中庸の神を服膺して人の子なりては孝も止り

人の位下とありてを孝も止り人の親となりてを慈も止り人の
若くなりてを仁も止り人の見とありては惠も止り人の弟
とありてを恭も止り人の朋友とありてを信も止り富貴は
素してを富貴とけりひ素徳も素しては素徳とおこなひ
夷狄も素しては夷狄とおこなひ患難も素しては患難と
患難とおこなひ境遇も患難の累なきと水のなるより
水と心の守り教あるより山の定まるより暴君汚吏
も志と奪りてあはれ天災地妖も教下あはれとすまるとの
ありりすまはる聖胎純熟の時を脱胎神化して聖神の
位もとれきて化して位とありては日月とありては
四時とて序とありて鬼神とて吉凶と合せ曰表も光被
し下も格ふるなり及は南面の位もありては帝堯乃若
たるなり北面の位もありては帝舜れ居たり也位とけ
り下もありては玄聖素王の居り孔子曰夫聖

今世又何必於孝年

古の安之曆初冬

日月多知を刊行

新問答を我勝樹先生の撰ぶ忍ならず先師嘗て
仕と豫列を致して江陽の由る豫方乃同志先覺の
離て刑儀をうなむ又文學ははるる分れ経書の
觸奈と心得魚をいかけさそ惑と奇(後)入
及さ方以彼名をり一多與(一)ま少希ぬ師乞よ
抄く終よ北問答上下と著し一由ふ時よ寛永十八
年辛巳乃果維純師の学愈新なりまういづつて北
問答愈も心よかるん改正乃志何れを廣く門人
もまた授けしぬまはるる未の年梓人の手よりして
沈す梓小ちるまをり一と幸よ早く知て是と厚なりぬ

或人曰吾同答其又正明して之論快活也吾人の思ふ
るがごとく此を讀んで益をうゑるゝ多かるゝ何れゆへに
かく秘してあむ秘く授けざるも或師の曰答は
同答と出せし時今も此をわんて字にまじり精到なるは且
聖道乃のりれざるゝとまじり末学の弊を救ふ心あり
故に其後海抑揚甚しく流は圭角の累とまぬれ
次漢人吾本をさしとせんと却て或ハ勝心と助らん
忍をせよ益なかるゝと損あるん吾これ改改正せんと欲せ
故に今ひかく傳多ん事と欲せま
丙戌の年下巻二二篇と正し多かるゝ丁亥の年又これを

改めんも病どりつゝの故もやかきたり多流は不來同
年上巻と改め書せんを欲せまらふゝ多又果さま
先師嘗曰同答の中儒佛と論ずる処乃どま今これ
を讀よと理精當をゆざる事と完ふ
又曰同答上巻吾孝經の觸祭して筆を下す故に頗孝字
を播弄も孝經の旨をおおてハ教多ぶ半河もまといとも
今これを撰を又と
又曰汝書志守あつゝ世を憤り弊を憂る的人人讀む
或ハ觸祭興起つゝ心術の精微用功下子の実地乃
をこれといまゝとあく論下及たす先師の意かくの

ト一は是より同答とあるも其の旨は故に
師卒して後愈これと我を然るに今春又梓
洩て流し板の巻を讀み乃草稿の作して旧
本の清書もこれと何れも隠しつらむと
誤字脱簡も亦同多し故に今やむとせし
と考訂し且前後改訂の篇を編入し并に
叙して御以て師の志と何れもこれと梓
刻しむ讀者これと何れもこれと梓
と考へ此は同答と何れもこれと梓
中庸と希ひふしは書乃入後乃階級も
なりぬ

りなむとさう小漢去く滴血の實なく致知の功を
せりなりは却て先師乃おそれ一弊も漏ん吾黨
欽哉

孝安三年 庚寅夏六月既至門人識

病同答下 丙戌冬

魯國は君莊子小のうて曰魯玉を偽者お有りて先生の
乃と字りのをくか〜莊子曰魯玉を偽者甚く〜君
あやまるとく多〜乃〜ま〜魯云乃曰魯玉の人正半偽服
とさ〜乃〜攪とま〜か〜い〜んや莊子曰偽服を偽者の装
束あると仁義を偽者の偽なり装束は誰もさ〜ん〜れ〜偽服と
為さる人さ〜も仁義の心を記し偽者よあ〜れ〜只偽服とさ〜る
凡夫あり仁義を君子さ〜る乃受用さる偽をれと多〜ん〜夷
國の装束とさ〜る人さ〜も仁義の心あり凡夫よあ〜れ〜夷
國の装束とさ〜る偽者ありあらぬは儀神農を偽服と
め〜れ〜も信法あり〜し〜天下乃偽者少〜
ま〜海を魯國の人を信服とさ〜る〜も多〜分信法
ありま〜れ〜信者ま〜あ〜れ〜我〜と〜さ〜る〜多〜
ま〜信法〜〜信服をさ〜る者〜と〜死〜お〜な〜

皆く禁制を以て試み多しと曰く魯公莊子の言を用ひ
くたのどく法を下して下りて入目おぬれど中
に儒服の者みれば多し一人儒服とあはれどもそのあり免
るく國事と同しとまひぬと千物あまらして死するあり
あり

仲曰魯國の君は儒服とあはるる人とあて信者とあやまる
今の在るの人を信者とあてむ人とあてて信者とあやまる
たのあやゆりそのふかからんとした実相とあはるるこ
とはおかしきまひあり文字を藝ふれと物お月よく
生れつぎる人をききれとおひらるるれし文字ある人よ
ても仁義の道なれば信者といはれども文藝ある凡夫なり
一文不通の人ありとも仁義の道明らるる凡夫あり
文字ある信者ありは理を分明なればその時のあり
あやまりありんん信者とあてむばりて字同とあひ

文字ある人と信者とあてむるはまひむ人のあはれ
よきつぎる人なりと字同とあてむるはまひむ人のあはれ
かとのまひなりと士のまひに何れぞかといふはさし
信りくあり儒服の信者小ありとある事とあはるる
莊子のいふ人なくと字同の本とせむるにぬらるる
といふ天下の大不幸ありと
休元曰字同の本とせむるはまひむ人のあはれと下り
大不幸ありといふ

自此以下十二段と書教お月くて文字あるは
りのまひなりと一はれぬ小至て下りて本と
小異大同故に刪之

休元曰名利小ありゆありと字同とあはるる人のあはれ
此をりつとも少くはさの名利の者なれとかくるふ
あはるるて字同とあはるる人のあはれとあはるる

高き海ありて約縁いかりの小なりゆれぬを以て
仰の白人心のまじりてを種うと知ありともろか
と自満の心ありて自れなりこの満心明徳と
仰いよまじりて自れなりこの満心明徳と
ひも又たさういふもこれなりと易小天道虧盈而
益謙地道交盈而流謙鬼神害盈而福謙人乃惡盈
而好謙謙亨而光卑而不可踰君子之終也といふ
盈は言満甚しくこれと是とて自用ひあるを
好く人とかりてめあかす心あり謙は温恭自意より
自反し独り慎み人とうる人であるといふ人なれ
吾とふは法也盈は天地鬼神のそなたに於て
て人も又是と惡し謙は天地鬼神の保祐しめ
る人なれ又是とこの見ぬ實理と明しと君子の盈
とすは謙と未めん事と示しと君子を漢ありはゆ

温恭自意の四字と以て初学心法の中義といはは四字の
法と用て満心とのそなたに於ては
心乃又なりとありて明徳日ふなりとあり
是は法よりなりと満心とのそなたに於ては
皆満心なりとありとありとありとありとありとあり
これの満心天地鬼神の保祐しめ
ゆれぬ心も又是と惡し是と明徳は
と未すといふなりと未すといふなりと未すといふなり
異風世の心とありとありとありとありとありとあり
づき者ありといふなりとありとありとありとありとあり
がらありといふなりとありとありとありとありとあり
是といふ人と相とん戒をせるのまじりといふは
君子とありとありとありとありとありとありとあり
とありとありとありとありとありとありとありとあり

自己心裏に固執するは明法の寛裕温柔を以て去る
日ふかきくは中しくよ人と和睦せんかとのふたつをぬかく
あれは学問の益といふものハ昔々文藝を以てり乃て世間の
人をもんく抱よむかか者あるものハ益のとなを
とつたは法そのいこれ外はあつたあつた世間の学者
今も凡俗の習態とありひすて学問中一段の明法とめ
くすして孝悌の法のまゝとありハ親を子の学問せらるは
分けは君を臣下の学問せらるは子とて学問とて志すは
外にのゝかへん士を云よとよとん農人商人はむすく
学問かくてハかれの事ありとてりてとんた一々
あれハ世俗の学問とてあり小可くハ学者れを以るなり
学者のまのく不ありありと紙も人と学問するとのれ
く幾もハ世俗の学問とてありと少てを或ハ後と立或ハ
まゝのむすくめてそのあやまりの己もとあり本とま

此の凡俗とてつてんれは学問の實義は志を以て学者を
世俗の学問と持ちつらとよとまを以てりハ此の聖門のつて
人ありとて 問曰一文不直もも仁義の明法ぬかな
人ありとては聖人以下の人も学問かくして明法
とめふするとありハ 答曰それとも文藝
と学問とあやまりとる智心とて起り教あり居るの先
是もくはくはく性命の道と学問とて学問の實義と
は文學を以てその一ふありとれは文學かき大昔はもと
よとん漢言とて抱かたれハ只聖人の言とて子ハ
学問せらる世の末はかきも学問の本義とれ先
さけあれはとるく智賢あれと憂ひくは道とよの
平ふたれして学問の境と定め給ひくはとていひくは抱と
よとん学問の初門とてさるあり人の生けは海くあれ
又藝を以て是用少して心法の出入を以て是用

多し人ありては類の人多し俗儒とあるなり又又藝を天下小
せき用して心法の出入を極く思用する人ありてかくの
正しく教人より先究は後ひ聖賢賢徳の清明と字時
を文藝を思用あれし文字訓詁と聖賢本をかくべき
とせども心法のせりつらむを思用なりふらつて必聖賢賢徳
此大さこまこととよく少くなくとぬ位とぬらう君子に
あれりかくあれし一文ふ通ともよとの学者ありいんを
あれし又藝八道と未り答なり奥とこれハ答を吾用乃
とのあり 問曰大学の道とて子も下唐人も玉
まその教ありと少愚癡不肖の徳男徳女の書とよむ
事多しとくまといふ 答曰じり聖人の法代よ
まづかの小里もも学校ありては正皇のまの代友を師
道とくして耕作のひまよ聖徳と清徳と道と教ふ
らうく愚癡不肖の徳男徳女といふらまて事物の本

こととくゆんまらなり文字訓詁小を通せざれとも聖徳のま
宏と少れ字句の実義とつて人して心と心と一なり
修り事の中へ末代乃俗儒のおよこする不かり文字訓
詁はよくぬ一ぬとも心の考ゆかくせんゆ凡俗よひ
ふれをよ実の讀出よあふん流ふと海流よこの海流よま
はくしりきとく又育ありとも聖賢賢徳とよく位作
るくともんそくる人よ講釈をせむむこととよく心して
然の位とぬらよをれを俗儒の古物とよみぬらむと一きま
またりきり書物よとなりこれとありて見れし心字と
よく清とじり後男徳女を書とよぬらして讀あり今時
しる俗字の書物と讀てよまらふむじり 問曰唐
士より後より書物と讀てよまらふむじり 問曰唐
事よ 答云それを大なり心ぬそこあひふてさうさう
らぬ古物ハ十之九なり十之九のれ入のくこよぬらふ俗儒の

すもよめ下の差ありんあは差ありと書と
ふくことぬれよと書

肩同答上 丁亥

問曰人居世亦一はぬぐひのむじごとのを何半そや
答曰心のあふは極まり 問曰人居世亦一よいとひ推べ
ことのを何のりそや 答いよ心の苦痛ちと外をふ
問いよ苦と去く樂と来るをいん 答云字同なり
問云字同なり苦痛と除きあ樂とぬるはいん
答云元來吾人の心の本作は安樂なるものなりを征逐を孩
推ちよふ氣をそへ心と以んる一世俗も初童れ苦悩を
いんそは佛なりかといりかとのと心の本作を安樂して
若痛ふものなり苦痛は吾人の志をえらるゆ病なり
心をそとく服のし服の本作をたてあけ自中ふして
相とらんし分快活なりあ塵砂か目乃月入を
をそあけ自中ふして相とらんしも明らるる苦痛
可く一旦苦痛うへかすとも塵砂と除去とんる

不所よりて用用自中よりて分明快活ありてことごとく心志
本體を元來安樂なれども惑乃塵砂とて種々此若痛こ
らうとて一學問は惑乃塵砂とありて公をてあ不體の安樂
よりて乃を乃て學問とてことごとくつとめ工夫受用は凡そ心
の安樂よかす 同云皆人の心は公を乃後勅旨と若う
富を安樂と安樂は凡そ若樂境界はなかくて唯心よか
とていん 昔曰古徳の心は公を乃と凡見と云てあさ
まして惑あり凡を介と彩ふまよひふく実理と希ふも
之見ありて見を介と彩ふまよひふく実理と希ふも
まして智よ深り人欲も深り酒色財氣の惑より及よ下
ゆして天下と憂ひ公とゆて八國とゆて凡そ家と憂
妻子あれし妻子と憂牛馬と憂金銀財宝
あれし金銀財宝と憂とあり見とて大恥若とありて
るも介とありて天子とありて下庶人とありて介

相の足けも各かたるとあることごとく其人の若を差別
ありてこれを古教よもことごとく公の事とゆて凡そ中よ
んやすく高徳人をかるとあり君子を明徳ありて
ゆて智よ深りす人欲も深り勿論酒色財氣の惑
ありて及よ天下とゆて公とゆて凡そ家と
ゆて公とゆて妻子あれし妻子と憂牛馬と憂金銀財宝
あれし金銀財宝と憂とあり見とて
ゆて皆樂となり故に上天子とありて公を樂まぬ不かく
下庶人をありて公を樂減する処ありてこれと門の古位と
富貴安樂の公を公を和漢とも小歷代の帝王明徳
とゆて酒色財氣の悩む凡そ一軍瓢酒菴蔬食
とゆて公を公とゆて公を公とゆて公を公とゆて
又凡夫の上よて禁中乃文女とて情欲佛身乃若く厚
く公を公の耕耘と勅旨の公を公とゆて公を公とゆて

